

ニーズ量の補正について

平成26年8月1日
八街市市民部児童家庭課

0 歳児保育の「量の見込」の補正比較表

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
補正前	149	140	132	125	119
(1)	72	68	64	61	58
(2)	58	55	51	49	46
(3)	122	114	107	102	97
(4)	90	84	79	75	71

＜0歳児保育の「量の見込み」等補正の算出イメージ＞

※ 手引きに基づく算出値がX%であった場合の例

（１）現在の育休取得者を考慮

※ 調査結果の全国集計値（51.5%）を利用

$$\rightarrow X\% \times (100 - 51.5)\% = Y\%$$

現在、育休を取得している方を差し引く。

（２）1歳から必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育休を取得したい者の考慮

※調査結果の全国集計値（66.4%×29.8%=19.8%）を利用

$$\rightarrow Y\% \times (100 - 19.8)\% = Z\%$$

1歳以降の潜在ニーズに対応できる保育サービスの量が確保されれば、保育所入所のために育休を早く切り上げる行動が抑制されるはずである。その方を差し引く。

（３）1年以上取得者を勘案

※現在「18月以上取得している者」（7.3%）と「12～18月取得している者の半分」（11.2%）は、整備が進んでも1年以上取得すると仮定

$$\rightarrow X\% \times (100 - 18.5)\% = \diamond\diamond\%$$

1年以上育休を取得する方が一定程度存在する。その方を差し引く。

（４）年間の平均的な量の見込み

$$\rightarrow (Z\% + \diamond\diamond\%) \div 2 = \nabla\nabla\%$$

0歳児クラスは、「年度当初から年度末にかけて、出生に伴い段階的に利用者数が増加することを前提に、年間の平均的な利用者数を算出する。」